

「活力ある奥出雲町を目指して」 平成二十二年三月議会定例会 町長施政方針(抜粋)その二

先月号に続き、井上町長の施政方針を抜粋してお知らせします。

(本文中にある表現で、今年度は平成二十一年度、来年度は平成二十二年度となります)

住みよい快適環境の町づくり

水道事業

簡易水道事業

雨川簡易水道改良事業を来年度末の事業完了に向け引き続き取り組むほか、施設の老朽化、水量不足が生じている施設は、長期計画を策定した上で、順次整備を進めます。また、簡易水道料金については、料金統一から三年が経過することから、見直しを検討しています。

下水道事業

各処理施設の良好な維持管

理と経費節減に努めながら、住環境リフォーム助成制度等を活用し、接続率の向上に努めます。

公共下水道事業

引き続き横田地区内の管路工事を継続します。

なお、集合処理区域外の地域については、来年度、浄化槽を六十基整備することとしております。

ゴミ処理・資源の再利用

今後約十五年間の最終ゴミ処分が可能となるよう、仁多クリーンセンター最終処分場の嵩上げ工事に取り組むこととしています。

また、資源ゴミの分別と再資源化、ゴミの減量化を図りながら、最終処分場の延命と限りある資源の有効活用を努めます。

農村整備

金川地区のほ場整備工事については、今年度の繰越分に

おいて面工事を完了します。来年度は、道路工と換地業務を進めてまいります。県営中山間地域総合整備事業については、各団地のほ場整備、用水路など、地元調整を図りながら引き続き取り組んでまいります。

雇用対策

国は昨年引き続き、介護医療、農林水産などの分野で短期の雇用を創出するため、都道府県への交付金を増額しています。

この基金造成された財源と町独自で造成をした基金を活用し、担い手不足が深刻化する林業分野をはじめ、約七十名の雇用創出を図ってまいります。

地域の中で支え合う町づくり

地域活性化対策

これまで各地区に補助していた自治会活動費や地区文化祭、運動会など個別の補助金を統合し、さらに地域の特徴ある自主的な活動を促すため、包括的な「ふるさとづくり交付金制度」を創設します。また、町民自ら企画、実施

特産振興

消費者の安全志向に対応したエコファーマーの育成を積極的に推進し、仁多特産市、横田だんだん市場など産直市場への積極的な出荷を促してまいります。

国営開発農地の活用

農外参入企業六社で約三十五ヘクタール、農業生産法人を含めると、約四十八ヘクタールを活用いただいております。

林業振興

しかしながら、個人農家における耕作放棄地や作付休閑などの低利用農地は年々増加しており、耕作放棄地の再生整備補助金を活用しながら新規参入者への働きかけを行い、農地の再生・利用の促進を図ってまいります。

間伐作業道の路網整備を図り、間伐材等の効率的な搬出と利用促進に努めると共に、高性能林業機械導入に向けても取り組んでまいります。

第三セクター

美術館を併設・改築した道の駅おろちループは、引き続き赤字からの脱却に向け、一層の増収と経費の削減に努め

健全経営ができるよう支援をしてまいります。

他の第三セクターにおいては、経営状況は順調に推移しておりますが、引き続き雇用の継続と経営の安定を支援してまいります。

商工振興

商工会に対して、経営改善普及事業等の財政支援を行うと共に、飲食店・商店への改修改造の費用の一部助成や町独自の商業活性化重点支援事業を引き続き実施してまいります。

豊かな心を育む芸術・文化・教育・スポーツの町づくり

学校教育の充実

学校や地域の特徴を生かし、充実した教育の推進に引き続き努めてまいります。

学校施設整備については、二十一年度の繰越事業として、仁多中学校屋内運動場の大規模改修・耐震補強事業、亀高小学校校舎の改築、馬木小学校屋内運動場の改築に取り組みます。

また、学校再編については、「学校再編基本計画検討委員会」より提出された答申内容

する公益性のあるまちづくり活動を支援する新たな「きらり輝く地域づくり交付金制度」も創設します。

これらについては、各地区の振興協議会や自治会長会連合会を中心に、地区ごとに公民館と協働で地域活性化策や子育て支援、教育環境の整備など、様々な地域課題解決に向けた活動分野の拡大を期待するものであります。

新過疎法と中山間地域対策等

今年度末で期限切れとなる現行過疎法については、与野党間で六年間延長することなどが合意されたところです。新過疎法の下では、新たに

集落の維持・活性化や地域医療の確保などのソフト事業が過疎債の対象に追加される見込みです。

町としては、地域医療や生活交通の確保、教育、産業振興、Uイーターンの推進など、過疎・中山間地域の活性化に向けて積極的に取り組んでまいります。

定住対策

Uイーターンの定住促進のため、新たに森林作業従事者を確保する「地域おこし協力

を尊重し、全校児童数十五名以下の小学校について、長期的な視野に立ち関係機関・地域の皆さんと更に検討・協議を進めます。

各地区公民館では、地域の生涯学習の拠点としてだけでなく、地域活性化の活動拠点として機能を強化してまいります。



体育館が完成した亀嵩小学校

子育て支援・幼児教育の充実すこやかな育ちと望ましい幼児教育を一体的に実施するため、教育委員会の生涯学習課内に「子育て支援室」を設置します。

隊」事業を実施するほか、定住対策奨励金制度、町内就職の促進、空き家活用事業に引き続き取り組みます。

また、来年度から県が実施する「市町村定住推進員」への助成制度を活用し、取り組みを強化します。

更に、若い子育て世代のUターンを推進するため、町独自の「子育て支援制度」の充実、保育・幼児教育の環境を整備することとしており、「安心して子育てができる町」を目指してまいります。

活力ある産業で豊かな町づくり

農業振興

来年度から国が実施する戸別所得保障については、本町の水稻への影響などを十分検証してまいります。

また、本町では、これまで転作作物である大豆、そば、飼料作物について集団化加算を行ってきましたが、国の交付金単価が大きく引き下げられることから、来年度に限り町単独で激変緩和措置として単価の引き上げを図りたいと考えています。

さらに、「幼児教育推進協議会」を設け、相談窓口の一本化、幼児教育の具体的な運営等について、体制の整備を図ります。

なお、施設の老朽化や地域の要望、地区別の子ども数など、将来を予測しながら、幼児園の整備に逐次取り組んでまいります。

スポーツ振興

ホッケー競技は、小学校から社会人まで全ての年代で優秀な成績をあげており、これを維持・向上させることが本町の大きな課題です。

本年も四月に、ホッケー日本リーグが奥出雲町で開催され、地元「セルリオ島根」が出場します。

横田高校への支援とともに、セルリオ島根への支援も充実させてまいります。

文化芸術の振興

昨年四月、神話の舞台であるここ奥出雲町に、新しい郷土芸能として、「奥出雲神代神楽」が誕生し、現在多くの公演依頼があります。

今後、ふるさとの神話や歴史を後世へ伝えるすばらしい郷土芸能となるよう支援してまいります。